



高崎志

下



高崎志卷下

新町 アラマテ

高崎

川野邊寛篤述



新町ハ連雀町ノ下申續ク和田氏ノ時ヨリ民家アリ地ノ舊
 名未詳昔日此町ニ飯塚常仙ト云者アリ此邊ハ社屋也慶長
 四年井伊家当城ニ移徙アリ之日常仙酒肴奉テ祝賀且
 其日竈火焚始ヲ以新ヲ獻ス此事ヲ嘉例トシ是年城主ヨリ
 常仙ニ命メ五月端午殿閣諸門ニ菖蒲ヲ葺ク又其年
 暮松飾ヲナサシメラシメ下ナリ今ニ至迄城中諸門菖蒲

ヲ葺門松ヲ建ルニ此所ヨリ人夫ヲ出シ其事ヲ為シ井伊
氏ノ嘉例也ト云新所ノ名ハ其美未詳城主ヨリ賜リト云
傳タリ大坂御陳ノ時高岡村ニ居タリ之角田儀右衛門ト
云者酒井家次ノ供ノ上リ天王寺ノ合戦ニ比類希ク御
ノ感状ヲ賜リ子孫今ニ酒井家仕ノ今問屋角田八左
衛門カ先祖ハ彼儀右衛門カ弟ニ共ニ酒井氏ニ仕ヘカ後
酒井氏高田ニ移ラシメ及テ暇ヲ乞テ高岡村ニ歸ル其後故
アリテ城下ニ来リ常仙カ跡ヲ繼ニトナリ大坂ニ於テ宮内
大輔忠勝ヨリ賜リシ感状今ニ傳ヘテ八左衛門カ家ニアリ

不分明也聖原
赤坂村ノ内大音
寺ニ在リトイフ名
所ナリ河内岸
有之ニ傳聞
ナシ殊更ア可
ニテ可持ハシ
可質也

此所慶長年中ヨリ傳馬ヲツトメ寛永九年ヨリ田所ト
同シク問屋ヲツトム慶長以來地子ヲ免サル享保ノ始ニハ
聖石河岸ノ高瀬船ヲモ此所ニテ持トナリ後船持共ナク
ナリテ其事止タルヨシ其頃ノ書付或ハ船持ノ別帳等今
ニアリ

清海寺ハ普化禪宗ノ虛無寺ナリ西類ニテ大龍山
ト号ス下総国小金一月寺武藏国青海鈴法寺
觸下也田所慈上寺ノ記録ヲ案スルニ此地ハ昔清海
ト流行者住シ跡ナリシヲ明曆二年丙申慈上寺

風月其弟子圓心エン下云者ヲ此チキ置テ新ニ風呂寺トス
故ニ清海寺ト号ス圓心死後風月弟子竹道後
住タリシヨシ見ユ本尊尊藥師石像長一尺二寸弘法
ノ作ト云リ此像昔ハ新後關村寺前ト云所ニ草堂
アリテ安置ス何ハ頃ヨリカ当寺ノ持ナリシヲ竹道ト
云者在職時堂破壊ニタリシニヨリテ寛文五年乙巳
三月當寺ニ移シ本尊トスト城主ノ役所記録アリ
此藥師ノ免田新後關村ニアリ

西小路 湯屋横町ト云捨物所へ出ル

東小路 砂賀町へ出ル

諏方明神

諏方明神ノ社ハ西小路ノ南角ニアリ慶長四年箕輪
城下ノ下社ヲ勧請スト云此祠昔ハ石ノ祠ナリシカ享保十四
年巳酉火災ニ罹リシ後今ノ社ヲ造シリ瓦葺塗土屋
也別當真福寺毎年七月二十七日祭礼アリ産子ノ
町ニヨリ色クノ造リ物ヲ出シ旗幟ヲ建鼓吹歌舞
廿六日夕ヨリ參詣群集ス新緝屋所上ノ社ト同日祭
ナリ

真福寺

真福寺ハ東類ニアリ盤王山功德院下号ス真言宗
ニ延養寺未寺也開基未詳開山ヨ弘清ト云寛
永七年ヨリ任職ニ現任迄八世ヨリ境内ニ除地也
門西向

稻荷社 板宮也 鎮主

本堂西向六間三三間瓦葺本尊大日弘法大師

木像ヲ安ス

庫裡 五間半三二間瓦葺也

延養寺

延養寺ハ東類ニアリ真福寺ノ南ニ隣ル吹瑠璃山正法
院下号ス真言宗ニ高野山大乘院未寺也寺領十
二石ノ御朱印アリ寺記云開山法印慶覺者此
紫ノ人也初居上野群馬郡堤日夜修三密法時源大
將軍尊氏信師道德靈感乃為創一宇道場安弘法
大師所刻藥師佛石像造二重率堵婆師至徳二年
乙丑十月十六日化ストアリ後上杉氏東國ニ管領タ
ニ及テ堤ヨリ平井時ニ上杉氏ノ居候ニ移リテ上杉氏ノ祈願所タリ

後巖鼻^ハ移リ又箕輪^ニ徙リ後又此^ニ移ル^ト云記録散^ハ又傳^ス

門西向瓦葺

八幡宮 鎮守

稻荷社 皆板宮也

藥師堂 門左アリ三間四面瓦葺南向也本尊^ヲ藥

師如來石像弘法^ノ作秘佛也前立木像日光月光十

二神將木像^ヲ左右^ニ安^ス

地藏堂 本堂西^ニアリ六地藏及十王以下冥官^ノ木像

ヲ安^ス二間四面瓦葺

本堂 南向七間半六間半瓦葺額ハ山号^ノ高野山寺

福院 本尊^ヲ大日^ノ木像不動及二童子木像^ハ智證^ト

ノ作也地藏木像秘佛^ノ宮殿造^ル厨子^ヲ安^ス作者不知又

弘法^ノ木像^モアリ

庫裡 十二間^ニ四間^ニ瓦葺

寺寶

武田入道信玄書^{朱印} 三通

古畫 鯉 一幅各款^{ナシ}元信筆^ト云傳^ノ

以上

當寺ノ地藏毎年七月廿四日晝夜參詣群集當寺ノ末寺二箇寺アリ

西小路下横町ト呼フ下前裁町ノ下見

此町神事舞大夫ト云者三四人アリ里人常ニ大夫ト呼又飴大夫ト呼トナリ三社権現ノ札トテ四方ヲ持アリキ賣又祈禱トスル也常ハ自余ノ所家連リテ思ヒ思ヒニ産業ヲス彼等ノカ妻ニ多ク梓巫也土人ハアカト呼リアツサノ轉訛カ同流ノ者諸國ニ多シ太神樂トテ獅子頭ヲ戴キ國ニヲ舞

アリトナリ彼等ハ江戸浅草神事舞大夫田村ハ大夫

ト云者ヨリ職法書ヲ受ケ三社権現ヲ祭ルヨシ一社ハ荒神

駒形大黒ヲ云下彼等ハ云リ三社ノ祭ハ三月十五日ナリト云

予東都ニテ彼舞大夫ノ事ヲ人ニ問ニ田村ハ大夫ニク浅草ノ田原所ニ住テ諸國ノ舞大夫ヲ支配ス常ハ大黒ノ畫像ヲ賣又龜拂祈禱ヲナシ武ハ神事ニ与リテ歌舞スルヲ職トス三月十八日浅草ノ三社権現ノ祭礼モ彼等專ラツトムルヨシ但高崎ノ舞大夫共三社権現ヲ荒神駒形大黒也ト云ハ認カ三社権現ハ浅草寺ノ境内ニアリ是分ニ宮戸川ニ漁獵ノ觀音ノ吳像ヲ綱ニカケテ引アケタリシ繪熊濱成武成ノ三人ヲ祭リ世ニ云傳ヘタリ三月十六日ハ觀音出現ノ日ナリト云今獨年ノ神事アリ故ニ江戸ニテハ觀音祭トモ云ナリ又駒形ト号ス神イマタ聞ス一日浅草寺ニ詣カヘルサニ隅田川ノ邊ニ道遠ニケル駒形堂ト云ルアリシ故其邊ノ人ニ問侍リシニ本尊ハ馬頭觀音也詣願アルモハサ馬ノ形ヲ造リテ觀音ニ奉ル故ニ土俗駒形堂ト呼フト云リ此寺ノ事記スルニ不及ナリト云郷ニテハ彼大夫カマミハ鳥帽子ト著タリ見テアヤシキ

者ニ思フ人多ケレハ
因テ此ニ記シヌ
此所ニ居ル大夫ノ先祖ハ初箕輪イハツクトシ慶
長年中此所ニ移ルト云又南所ニモ同流イハ者アリ

新田所

新田所ハ新田ノ南ニ流ク慶長十五年丙午城主酒井家次イハツク新後園村
民家ヲ此ニ徙ウツシ新タノ町トセラシ故新田所ト名ツケト也
俗ニ鰐ヒラヲ新田ト称スルニ因テ方俗田島ニ限ラス總テ新地ヲ
サシテ新田ト称スルカ故也此地初ハ赤坂村ノ田也故町ト
成テモ猶其年貢ヲハ納タリニ安藤家城主時寛文四年
甲辰檢地ノ後村高ヲ除カシ唐澤年貢地下ナル名主小嶋

某カ家ニ古キ書モノナトアリシカ享保十四年己酉ノ火災サイ
燒失ノ今僅シカニ二通ヲ傳タルニシカモ槐証ヒヤクスヘキモノニモアラス
鳥川カラス聖石ヒシリ渡船モ昔ハ此所ニテ持シカ今ハ石原村ニテ持イハ
子細アル事ニ聞シカトサタカナラス又篠場河岸ノ後事ニ因テ
本所ト爭論アリシイ本所ノ文書ニ見ヘタリ

當山流ハ修驗堂シユケン教院ハ醍醐タイゴ三空院御門跡ノ末流ノ慶
安三年庚寅ヨリ此ニ任スト云

番所 所ノ出口東類カハニアリ城下下ノ入口門カハニ例赤坂所
番所ニ同ニ安藤氏領主ノ時建之ニト也舊モトハ西側カハ

アリシヲ寶永四年丁亥十一月今ノ所ニ從サレ檜皮
葺也瓦屋トナリシニ享保十四年燒失ノ再造ノ時也

南町

南町ハ新田町ノ南ニ続ク領主安藤氏ノ命ヨリテ慶安
三年庚寅始テ家作ノ町トナル城下南ノ端ナル故ニ南町ト
名ツケラルト云傳タリ地ハ是モ赤坂村多也此町新田町境
ヨリ巽ニ斜也

愛宕山 附 龍寶寺

愛宕山ハ南類ニアリ當山ノ縁起一卷室曆十三年癸未

正月火災ニ遭テ燒込ス今不可考寺説勝道上人弟子
神體ヲ安置シ和田六郎兵衛尉也信社ヲ建立スト云傳聞
ノ謬ナルニ勝道上人ノ事蹟ハ性靈集ニ見タリ下野國芳
賀ノ人ニ姓ハ若田氏也天平七年乙亥四月廿日生シ弘仁
九年丁酉二月一日年八十三ノ化ストアリ和田義信カ事
上卷ニ見ヘタリ勝道ノ事歴數百年懸隔ス或此勝道同
名異人カ元和二年丁巳城主松平安房守後更伊信吉數
地免田ヲ寄附セシ祭礼九月二十四日近邊ノ町ニ熾ヲ建
造リ物ナト出ノ壯觀トス当日柴燈護摩ヲ修行ス又六月

北日泥仰ノ輩トモガラ當社集會之終日素食潔齊ソシヨクケツサイスコレヲ
愛宕精進シマフシシト云

石鳥居額ニ愛宕山トアリ

辨天堂 鳥居ヲ入テ右ニアリ一間四方板宮也辨戈天

石像ヲ安メ相傳此像昔ハ南町ノ南阪タンボ中埋ウツモニテ

在ニテ掘出セシト云後ニ今ノ刑遷ウツス年月不知免田アリ

八幡稻荷秋葉等ノ末社ホウソフ狛倉神ノ石祠六地藏ノ石像等

モ同所ニアリ

舞殿 二間ニ六間瓦葺

并殿 二間ニ三間瓦葺寅卯ニ方ニ向フ

本社 九尺六寸四方瓦葺内宮檜皮葺也神體シニ秘クイヒ

ノ并スル入ナシ前ニ本地勝軍地藏脇立不動ヒシヤモシ毗沙門

ノ木像ヲ安ス

龍寶寺ニ愛宕ノ境内ニアリ即當社ノ別当也長光山

ト号ニ当山修驗ノ觸頭シムケシニ醍醐三空院ノ末流也シイゴ修驗ハ

皆山城醍醐三空院御門跡ノ末流也シマノ後不記 間山ハ源西ト云仁治ノ頃ト云

ル未詳天文二年真如院ヨリ世々相統ソラツクスト云リ

寺寶

大日像 一軀長一寸七分黃金ノ鑄像ト云傳フ
大黒天畫像 一幅 弘法筆
天神畫像 贊 一幅 杲月筆

以上

新喜所 アラキマテ

新喜所ハ南所ニ続ク高崎ノ入口也地ハ是モ赤坂村ノ田
ナリ間部越前守詮房領主ノ時正徳二年壬辰田所連
雀所南所ノ町人四人請テ所トス今南所持也此所端
ニ石橋アリ昔南所ニ荒木某ト云者始テ此橋ヲ架ス故主人

荒木橋ト名ツク其後此地町トナリシ時直橋名ヲ取テ荒
木所トス之ヲ荒廢ノ義ヲ惡ミテ後ニ新喜ノ字ニ更ム彼荒
木某カ子孫今ハ新所ニ住スト云

此所ヲ出シハ左右松杉ノ並木ニテ倉賀野ニ行中山道ノ
驛路ナリ又藤岡武州秩父ノ道モアリ

以上記自新所南至新喜所大道

鞘所

鞘所ハ外形一曰倉邊木戶外北方ノ所也是モ慶長年中箕輪

ヨリ從ルト云此町朔師多ク居ル故ニ名ツク

劔^{トギ}所東西ノ小路ヲ云西ハ郭内ニ入東ハ田所ニ出此所劔

師多ク田所ヲ隔テ東ノ小路ヲ白銀町ト云金物細工

彫物飾師等住ル故主入白銀町ト呼此町ノ名也後彼等

此所ニ從リテ今ハ別町トナル下ニ見

鐘樓 劔^{トギ}所ノ西ノ端北側ニアリ堅六間ハカリ横八間餘

地中ニ上臺ヲ築テ上ニ樓ヲ造レリ東西一丈四尺南北

一丈一尺アリ鐘樓上ニ望樓ヲ設ク總高サ三丈六尺

大鐘 腹ニ于時貞享三丙寅年四月吉祥日

ト切付テアリ

此鐘モトハ城由西ノ丸ニアリテ時ヲ報ニタリモトヨリ城ノ

西南ノ隅ニ林木ハ蔽カ會ノ所ナク鐘聲遠ク聞ハストテ

城主安藤氏貞享三年四月新ニ改鑄テ今ノ地ニ樓ヲ

建其鐘ヲ懸タリト云地ハ元石上寺ノ境内ナリト云朔

町地杖ノ樓ヲ建キ地ナキ故石上寺ノ境内ニテ今ノ地ヲ

借ラシト也常ニ城主ヨリ人ヲ附置テ鐘ヲ撞クシテシカ

元禄八年ヨリ朔町ヲ持トス今鐘撞入ユスアリ其小屋

鐘樓ノ西ノ傍ニテリ又其西ニ火消小屋アリ鐘樓以下
破損アル皆領主ヨリ修補セシメテ享保十二年丁未
十二月晦日火災ノ時樓焼テ鐘火トナリ樓上ヨリ墮上
轉ク南側ノ人家ノ庭ニ轉ヒ入テ其聲吼クト少懼ルヘシ
然レ火氣サソテ後見ルニイサカ輿キズナシ其聲如故鬼
奇異ノ思ヒヲナセリ此鐘ハ他ニ異ニ其音清亮音律
ニ諧ヘリトソ

中紺屋所

中紺屋所ハ朝所ノ北ニ続ク此所由來詳ナラス戸數モ少ナシ

元紺屋所新紺屋所ノ間ナレ故ニ名付ニナレハ昔元紺屋
所ト云也ト云

東小路田所古著所ニ続キ西小路ハ郭内ニ続ク此所ハ
東西ノ通人家多クシ

玉田寺

玉田寺ハ北側ノ端ニアリ真言宗ノ新義ノ確氷郡八幡村
大聖護國寺ノ末寺也真珠山妙建院ト号ス寺領十二石
五斗ノ御朱印アリ開基ハ和田左兵衛大夫信輝
永正元年甲子祈願ノ為ニ創立スト云傳タリ開山ヲ増鏡

下云寺説^ニ当寺昔ハ境由三千坪餘アリ寺中六供ノ中
東坊西坊等ハ門、左右ニ在^ニ下云今皆廢ス
門南向瓦葺

稻荷社門内ノ左ニアリ二尺五寸ニ四尺四寸檜皮葺

瑞籬^{ミツカキ}アリ一所ノ鎮守^{チシニユ}トス常ニ參詣多シ

飯王社 石祠同所ニアリ

藥師堂 東向本堂ノ前、西ニアリ三間四面瓦葺也本

尊藥師佛ノ本像運慶作也日光月光十二神將木
像^ヲ左右ニ安ス

本堂南向七間半六間瓦葺本尊大日ノ木像弘法
興教ノ像ニアリ

庫裡 六間ニ四間瓦葺

寺寶

阿彌陀木像 一軀 行基作

不動木像 一軀 興教作

歡喜^{カシ}天銅像 一軀 弘法作

弘法自畫像贊 一幅

如意輪觀音畫像 一幅 牧溪筆

青面金剛畫像 一幅 弘法筆

山水畫 一幅 唐畫筆者不知

弘法加持石 二箇 石芋 石蛤

佛舍利 一粒 此舍利ハ昔早殿スルコトニ城主

ヨリ當寺ニ余ノ請雨セシム時ニ住持此舍利ヲ奉シ今

大染寺ノ西ニ至リ鳥川ノ邊ニ於テ請雨ノ法ヲ修スルニ

必大雨降リ下ナリ故ニ世ニ相傳テ秘藏セシカ住持云

負遷化時其弟子等誤ヲ棺中ニオサメ葬ルト云

今ハナシ

以上

裏門 本堂ノ背ニアリ寄合町ハ出ル

當寺ノ末寺ニ當寺アリ

寄合町

寄合町ハ中紺屋所ノ北ニ繞ル此所由来不知相傳音此

地農工商賈雜處セシ故ニ近邊ノ人寄合町ト呼ビヨリ

遂ニ町名トナリシヨシ或人曰古キ帳面ハ此所ノイヲ五器所

ト記セリ五器ヲ作ル者住シ故也ト云リ 五器未詳方言カ今モ士俗專賤ハ葦ハ梳ヲ

キト云然シハ則五器ヲ作ル者ハ梳ヲ作ル者ヲ云カ今モ西小路袋町ト云所ニ五器町名

残レリ

西、小路袋町ト云即五器町也玉田寺、裏門ニ出ル行
止リノ小路也

東、小路田所柳町ニ続ク此所田町市ハ烟草ヲ賣者
多ク出ル故ニ土俗烟草横町ト呼フ

西、小路郭内ニ入ル近年此所所家(貸地トナリ今ハ通
路ナシ

新紺屋町

新紺屋町ハ寄合町ノ北ニ続ク此町モ由来未詳相傳テ

箕輪ヨリ徒レリト云此町紺屋多ク故ニ元紺屋町ト對
新紺屋町ト名ツクト也

諏方明神社附金剛寺

諏方明神社ハ東側ニアリ当社ノ縁起神室ノ類享保
十七乙巳年十一月十八日近隣ノ大火ニ神殿延焼ニ比皆焼
ノ傳ハラス境内除地ナリ相傳フ此社モ箕輪ヨリ遷セリ
箕輪ニ於テ上ノ諏方ト稱セシ故此ニ徒ノモ上ノ社ト云ト也其舊
跡相祭田今猶存ス金剛寺持也毎年七月廿七日当社
ヨリ往テ祭礼ヲ行フ此地昔ハ大ナル沼アリテ今田町邊

ニテ柳生タル藪ナリト云初沼アルヲ以宮處ヲモ此定メテ
云今ハ人家立續キテソト思ヒキ所モナシ祭礼七月廿日
例新所諏方同之此邊數所、鎮守也

石鳥居 額ハ諏方宮トアリ

拜殿 西向二間半、九尺瓦葺

本社 三尺五寸、三尺瓦葺額ハ諏方大明神トアリ吉

田二位兼雄卿業也寛延二年己巳三月十一日

城主四品妙觀公寄附セラレ今ハ神殿藏ム

金剛寺ハ諏方、境内ニアリ神龍山法泉院ト号ス天台宗

マ流川村真光寺、門徒也開基、由緒記録焼失傳

ハス箕輪ヨリ移リニ慶長四年也ト云傳多即当社

ノ別當也

本堂南向四間、三間瓦葺二尊、弥勒ヲ本尊トス

庫裡四間、三間二間四方、座敷瓦葺也

嘉多所

嘉多所ハ新緋屋所、西、繞ノ東西ノ所也此地元ハ所

ト云テ城主ノ組屋敷也明和八年卯年ヨリ借地トナリテ

所ヨリ人家ヲ徙之所トナリ本所ノ持ナリ之ヲ安永三

年甲午七月ヨリ別町ト成テ名主立ツ此時ヨリ町名モ
文字ノ更^カテ嘉多町ト云

北小路 本町湯屋小路ニ続ク

覺法寺

覺法寺ハ南類^{カハ}ニアリ至心山信樂院ト号ス向宗ノ京師
西本願寺ノ末寺也境内除地昔安藤家ヨリ寄附妣
アリシカ寛保三年壬戌洪水ニ流ク^{カハ}今ハナシト云當寺
開基由緒知ラス寺説開山存諦天正八年甲辰ヨリ任職
由言傳ヘタリ

門 北向近頃迄門及諸堂皆南向ナリシヲ安永三年甲

午二月類焼ノ後アラタメテ北向トス

鐘樓 門ノ南ニアリ九尺四方瓦葺

本堂 東向八間ニ九間瓦葺本尊阿弥陀木像ヲ安ス

庫裡 八間ニ五間瓦葺

寺寶

聖徳太子木像 一軀^{クニ} 自作ト云傳ヘタリ

六字名號 一幅 元祖親鸞^{ニシテ}寫葺

阿弥陀木像 一軀 安阿弥作

以上

敬西寺キヤフサイ、覺法寺、地中門内、東ニアリ、寛永十年癸酉、敬西ト云者、開基ノ由本尊阿弥陀木像ヲ安ス、惠信、作、阿弥陀モアリ

以上記自リ朝所北至ニ嘉多ニ所

檜物所ヒモノテウ

檜物所、非ズ形木カタ戶外南ノ所也、由来不知、昔檜物師多ク住シ之、故ニ名ツト云リ

東小路 新所一出ル

鍛冶所

鍛冶所、檜物所ノ西ニ繞ツ此所ハ箕輪ヨリウツ役シリ鍛冶多クキカ故ニ名ツト也、昔此所ニ守重守次守行トスルカ工トアリ其前モ口エ多クアリト也、井伊直政ナヲ時集メラレトソ守重ハ善右衛門ト云初赤坂所ニアリ後ニ此所ニ移ル守重守行子孫ト守次ハ又右衛門ト云其子孫今名主トシ安藤氏ノ時本九二九及諸門ヲ改作ラレト時郭内カクシナイ鍛冶小屋ヲ建鍛冶ヲ居聚シ其カナモク鍛シラ

レニト也其鍛冶小屋今此所西郭内鍛冶小屋アル所
ニアリニト云

前裁所

前裁所、鍛冶所、南組屋敷ヲ隔テアリ新所、分シ
今ハ下横町ト呼也赤坂村古キ御園帳アリ元和辛
ノ下ヲ見ル此地ヲ御前裁ト記セリ其項此邊城主安藤
氏圃也ト云前裁ノ名コレヨリ出今或ハ千載ノ字ヲ用ハ
非ナリ又土俗下横町ト呼ル城下最下ノ小路ナレハナルヘシ
近頃ノ事也ト新所ノ役人云ヘリ

宰

宰ハ檜物所前裁所ノ間ニアリ左類ニ一構ノ地アリ合
木戸内左ニ宰番ノ小屋五軒アリ其奥ニ宰アリ宰番
共ノ先祖箕輪ヨリ役リニト云其家ニ弘治元龜築小
田原甲州等ヨリ下知書附数通アリ今モ近御所
離ハ多ク此宰番ニ属隸スルヨシ

向雲寺

向雲寺ハ西類ニアリ東陽山下號ス禪曹宗ニ甘樂郡天
引村向陽寺ノ末寺也寺領十二石ノ御朱印アリ閑

基未詳寺説ニ慶長元年丙申酒井左衛門尉家次
開基也開山ヲ傳洲ト云元和五年己未十二月廿八日本
寺ヨリ入院スト云今按スルニ慶長ノ始ハ高崎城未成箕
輪ノ領地也酒井家次ハ慶長九年初テ高崎ニ移ラシメ
カ家譜ニアリ又元和五年ハ安藤對馬守重信城主酒
井氏ニアラス又開基ノ慶長元年ヨリ二十四年ヲ歴テ
開山ノ僧入院セシモイフカニ因テ想テ舊記散亡ニ今傳
レ所皆無替ノ妄説也辨スルニ不足当寺初ハ遠攝内
ニアリシヲ安藤家ノ願ニ依テ此ニ移ルト云傳フ

門東向瓦葺

藥師堂 門内ノ西アリ二間四方瓦葺藥師木像安

秋葉宮 六尺四方瓦葺

神明宮 五尺ニ二尺

本堂 九間七間東向瓦葺本尊釈迦服支珠普

賢木像ヲ安ス

庫裡 八間四間瓦葺也

地藏堂 附和田七騎印塔

地藏堂ハ出端ノ木戶外ノ左アリ真禪寺ニ味場也

堂ハ八間ニ三間瓦葺木尊地藏木像ヲ安ス享保
三年建立下云リ堂西ニ墓所アリ和田氏及家臣七騎
ノ墓下テ古キ五輪アリ文字見ス和田七騎ト称スルハ和田記
和田信景カ家臣秋山
繪殿亮長島因幡大島備後福島加兵衛松本九郎兵衛栗原内記
直野下野天正三年乙亥三河國長篠合戦ニ信景ニ從テ敵ヲ衛北
頼ナキ手柄ヲ武田四郎勝頼感賞シ退口七騎トイヒヨリ其名關東
聞タリ又和田七本鎗片称ス此七人ハ和田氏ヨリ其戦功ヲ賞メ矢中
御ヲ与ヘシカハ矢中
七騎トモ称ストナリ 此地ハ城至ヨリ賜リニ換地也詳真禪寺
ノ下ニ見タリ淨心ト云者初テ此ニ居テ境内ニ松杉ヲ植ト下
云今ハ敏系茂ノ林トナル

植竹

植竹ハ前栽所ノ出端木戸外ヒビリ聖石河原ノ下ニ道ノ左
アリ昔植横所ト云ミハ此邊ナルヘト故老云リ地ハ赤坂村
ノ分也安藤氏ノ時此邊ニ顯觀場アリ其地ヲ罕番ニ与ヘ
今ハ畑トナル此地ニ飛入穢多等凡テ罕番カキニ屬スル者
多ク住ス植竹ノ名義未詳西南ノ岸上脩竹多ク

以上記自ニ檜物所南至ニ植竹

職入所ニ

職入所ハ新所ノ東延養寺ノ南ニアリ此地昔ハ組屋敷也
享保年中ヨリ大工職ノ者ヲ置ク故ニ里人常ニ大工町ト
呼フ南北一條ノ町ヲ行止リ也

砂賀所

砂賀町ハ新所ノ東小路ヲ云即新所ノ久也昔此所ニ
砂賀道膳ト云者住シカ其後人家モヤミ多クナリケト城主
ヨリ砂賀町ト名ツケラシメト也此道膳ハ今福島道通町
巖^{イハ}押^{オシ}村ノ間ナル道膳橋ヲ初テ架^カシ者也後ニモ彼道橋
破損スル所道膳^{トウセン}ノ家ニテ入夫ヲ出シ修^シ輔^ホニ来リカ子孫衰^{オトロ}テ

無^レカナリシカハ遂ニ新所ノ役ト成テ今ハ二町ニテ修^シ補^ホスル也
道膳^{トウセン}カ此ニ住シハイツノ項ナリヤ詳^ツナラス子孫モ今ハ絶^タタリ
野道 町ノ南ノ出^{ハツ}端^レ也

唐澤寺ハ同所ニアリ当山派ノ修^シ驗^{ケン}也赤城山徳藏院ト
号ス関山ヲ圓清ト云慶安三年庚寅芝崎村ヨリ移リ
現在ニテ七世ナリト云宅地除地也

元十人町 南北ノ町ノ東側^カヲ云城主家ノ宅十區^クアリ

今ハタノ十人町ト呼ヘ凡古キ帳面ナトハ元十人町トアリ

昔安藤氏ノ時此所ニ同心十人居ルコトヲ町家ニテハ

十人^{シウ}所ト呼^シト也十人^{シウ}所ト称此^ニ出^ル多^ク彼同心^ノ後郭^ノ

通所

通所元十人^ノ町北^ニ続^ク南北^ノ所^ニ東折^リタリ慶長^ノ
項中山道^ノ往還^ノ十^ノ故^ニ通所^ト云城下^ノ本道也東^ニ行^ハ
福島道也伊勢崎^ノ館林^ノ新田^ノ下野^ノ足利^ノ往還也此^ノ東^ニ
折^ル所^ヲ土俗^ト遠^ク構^メ下^ニ呼^ブ南^ノ類^ノ家^ノ後^ニ城下^ノ總^ノ構^メ土^ノ
隈^{アル}故也<sup>遠^ク構^メノ事^ヲ詳^シ
上^ニ善^ク見^ルタリ</sup>

庚申堂 附 庚申寺

庚申堂ハ南類^ニアリ境内除地

石鳥居 額ハ庚申トアリ

并殿東向二間九尺瓦葺

本殿五尺三寸瓦葺神體秘^シ拜スル人ナシ前^ニ青

面金剛左方右方^ノ二童子四百鬼ノ木像ヲ安ス

不動堂三間半^ニ二間半萱葺本尊^ヲ不動

境内^ニ稻荷高根天神疱瘡神昔^ノ未社六地藏不動

ノ石像アリ不動ハ弘法作ト云傳^フ

庚申寺ハ境内^ニアリ金龍山持空院下号^シ当山派修

驗ノ觸頭ノ庚申ノ別当也 開山ヲ圓山ト云文明二年ヨ
リ此ニ住セリト云

寺寶

不動木像 一軀 弘法作

富士画 一幅 安藤對馬守重信筆ト云

鑑 二面 古物也

以上

永泉寺ハ庚申寺ノ東ニ隣ル高根山大乘院ト號ス当山
派修驗也 開山ハ清譽ト云慶長十四年箕輪ヨリ此ニ移

ルト云

天徳寺ハ同所ニアリ同派修驗ト宇田山寶積院ト號ス

開山慶山慶長十五年ヨリ此ニ住スト云

護國院ハ同所ニアリ是モ同派修驗也

安國寺

安國寺ハ南北ノ通ノ東側ニアリ慈光山常照院ト號ス

京師知恩院ノ末寺淨土宗也当寺数度回祿遭テ縁

起記録悉ク燒込ス故ニ開基ノ端緒考フヘカラス 開山

光譽ト云今箕輪西朋屋村ニモ寺田アリ然則當寺モ

慶長年中箕輪ヨリ移ルカ寺領十二石

御朱印アリ

門西向瓦葺

稻荷社門内、左アリ鎮主也

辨天祠同所アリ

了安院門内、右アリ二間半、四間半本尊弥陀三尊

弥陀堂 二間四方瓦葺阿弥陀二十五菩薩の木像

安ス了安院ノ東アリ

鐘樓 二間四方

本堂 西向八間、八間半瓦葺額、安國寺トアリ増上

寺大僧正圓鑑ノ筆也本尊阿弥陀安阿弥陀作照

士觀音執至也善道寸圓光二大師、木像後檀二

安置ス善道寸三論宗ノ祖ノ念佛三昧ヲ修ス階ノ賜

帝大業元年、生レ唐ノ德宗永隆二年三月十四日寂ス

捨身往生ハ善道寸ニ始レリ傳ハ佛祖統紀ニ見タリ

圓光ハ名ハ源空姓ハ漆氏美作國人也淨土宗ノ元

祖タリ建曆二年正月二十五日寂ス元亨親昏ニ見

タリ元祿九年謚ヲ圓光大師ト賜フ

庫裏四間九間瓦葺

墓所寮二間三間本尊弥陀

寺宝

二十五菩薩画像 一幅 惠信筆

以上

大信寺

大信寺、東側ニアリ安國寺ノ北隣ル願行山下号
淨土宗ノ京都知恩院ノ末寺也寺領百七石ノ
御朱印アリ初箕滿アリ慶長ノ始此ニ移ル元龜元

年開基ノヨミサレ共由来詳ナラス開山ヲ總譽清巖ト
云武州巖槻城主北條氏房カ伯父也ト云寛文三年癸卯
檀林ニ准シ宗門禁色ノ金襴袈裟等東都増上寺
ヨリ免評ストナリ是駿河大納言志長御ノ御菩提所
シルニ因テナリ

門瓦葺 西向

源清庵 門内ノ右ニアリ五間ニ三間半

法心庵 門内ノ左ニアリ五間ニ三間半皆板葺也

鎮守社 八幡諏方相殿也源清庵ノ東ニアリ

千體堂 三間四面萱葺本尊阿彌陀今廢ス

本堂 九間四面西向瓦葺也本尊阿彌陀脇士觀音

執事木像安シ左大納言忠長卿峯巖院ト号ス靈臍

ヲ安置シ善導圓光二天師木像ハ後檀ニ安ス

庫裏 八間七間

廊 長十間

忠長卿ノ御廟ハ本堂ノ南松杉ノ森ニタル中ニアリ四方

牆垣ヲ繞ラス東西十八間南北四間ホトアリ御墓所

ニ松ヲ植タリ前ニ宝塔ヲ建西向也并殿及門等イ

此略ス

鐘樓 本堂ノ南ニアリ二間四面瓦葺

寺寶

忠長卿御守本尊定印彌陀銅像 長寸五分 一軀

忠長卿御道具刀朕指小刀薙刀等 其他調度數品

後陽成院宸筆 当寺三世圓誓不殘道德

圓誓 獻聞達ニ紫衣 勅許時下ニ賜リ

ニト云

紫衣 一領 圓誓不殘代

東照宮ヨリ拜願ト云

色紙 一枚 文昭廟御筆

金襴袈裟 一頂 天樹院殿ヨリ拜願

以上

當時ノ末寺ニ箇寺アリ

西小路連雀所ニ出ル北側二十九間ハカリノ所ニ大信寺

門前ニ境內掃除ノ者居ル故ニ此所ヲ大門所トイフ

其餘ハ通所也大信寺ノ前ヨリ北九藏所ノ境ニ至ル

マテ敷所ノ間ヲスヘテ通所ト称スサレ地名ニ此所

ノ人家ハナシ家居アル所ハ皆他所ノ分也

念佛堂

念佛堂、西類ニアリ大信寺ノ持也善念寺ノ北ニ隣ル

間基未詳此地安藤家領地ノ頃大信寺ニ換地トノ賜リ

ニト云土俗此堂ヲ心念坊ト称ス堂東向五間四面板葺也

本尊阿弥陀服土觀音執至庫裡六間三間廊下二間

四方アリ

地藏堂二間ニ三間 瓦葺中央大ナル地藏ノ木像ヲ安置

ニ左右ニ王俱生神袈裟衣婆等ノ木像アリ七月廿三日

冒參詣多し

辨天堂 門内ノ右ニアリ

白銀町

白銀町ハ通町ノ北ニアリ東西ノ所也田所ニ出ル昔此町
白銀師アリ故ニ名ツク元ハ鞆町ノ分也其頃住ニ後藤某
以下皆鞆町ニ移リ之後人家漸ク多クナリテ別町ト云々
ハ名ツクニ金具師ナシ

此町ヨリ元紺屋所ノ間東側ハ城主家人ノ屋敷ナリ

本紺屋所本又作元

本紺屋所ハ白銀町ノ北ニアリ東西ノ所也田所市神宮ノ前
ハ出ル此町ノ名主宇佐美某カ先祖昔箕輪ニアリテ長野信
濃守城主ノ時領分紺屋ノ長タリ其後井伊氏ノ領地ト
成慶長年中此地ニ移リテモ舊例ニ因テ領分紺屋ノ支
配ヲナスキ旨城主ヨリ命セラレ年々紺屋ノ役銀ヲ取集ル
領主ノ役所ハ納金由延享三年奉行所ニ出タル由緒存
アリト云

善念寺

善念寺ハ小側ニアリ法道山弘真院ト号ス淨土宗ニ邑樂

郡館林善導寺ノ末寺也境内除地開基和田右兵衛大
夫信業天文九年庚子建立開山ハ信業カ弟僧正故ナリ
ト云系譜ヲ案スルニ正故ハ和田信輝カ子シ業敏カ弟信業
ニ叔父也且信業ハ元和三年九月二十九日五十八歳ニ卒ス
アルニ據ルキハ当寺ノ建立セシ天文九年ヨリ二十餘年ヲ經テ
生シタル其謬說辨ラ不俟疑ラズ當寺ノ開基業敏ニ
ヘシ

門南向瓦葺額ハ法道山トアリ

阿弥陀銅像門内ノ左ニアリ

地藏銅像 同所ニアリ

稻荷社 鎮守ナリ

鐘 雨覆九尺四方

藥師堂東向三間四面瓦葺本堂ノ前ノ西ニアリ額ニ藥師如

來トアリ弘法ノ筆ト云傳ノ本尊秘佛弘法作見月

光十二神持ノ木像ヲ左右ニ安ス五香湯トテ藥師夢想

ノ方藥アリ萬病ヲ治スト云

此藥師ハ初上ノ和田ノ地ニアリシト云
當寺ニ移セル由來年月未詳

本堂南向八間三尺七間三尺アリ瓦葺也本尊阿弥陀長

三尺守聖德太子ノ作照土觀音執至ノ木像ヲ安置ス

善導寸圓光二天師像、後檀安ス

庫裡七間、五間アリ

裏間通所出ル

寺寶

阿彌陀木像 一軀 天竺佛下云傳

觀音執至木像 各一軀 安阿彌作

阿彌陀木像 一軀 運慶作

同 一軀 惠信作

觀音木像 一軀 定朝作

不動画像 一幅 弘法筆

阿彌陀木像 二軀 厨子共伽羅也作者不知

釋迦畫像 一幅 筆者不知唐筆

法然上人四十八幅名號 一幅

山水畫 一幅 雪舟筆

以上

当寺ニ古キ石塔アリ何人ノ塔ト云テヲ不知觀應元年下切
付テアリ上和甲地ヨリ出テ下云今不見

稻荷社

稻荷明神社、通町通り、東側ニヤリ此ヨリ東昔竹林也
元和年中安藤氏ノ時此邊組屋敷ヲ立テ竹林ヲ伐ヒキ
テ屋敷地トシ或ハ畑トセシカ側ニ残レル竹ノ中ニ一ノ小祠アリ
所祭ルモ知ス羅漢町辺ノ人其アリテ數多モ孤子遊リ見
之故ニ稻荷ノ社ナルト思ヘリ其後竹ノヲモ伐ヒキテ祠側
ニテ人家建続シ享保十年乙巳十一月十八日夜郭内炎
ニテ此辺マテ延焼シ傍ノ家既ニ燒タレ其祠ハ災ヲ免タレ後
如故城主ヨリ組屋敷ヲ立テ祠ヲアタリサマシノ靈異アリシ
カハ城主ノ聽ニ達シ六十坪餘ノ地ヲ寄附アリテ社地トシ大染

寺ノ住持禪鏡ニ命セシ稻荷大明神ヲ勸請セシノ新ニ社
造ラレ同十年丙午十二月十二日遷宮アリト城主臣馬場
陳壽カ記ニ見ヘタリ此社、当城鬼門ノ壓鎮ナリト城主殊
ニ尊敬シ王ヒナリ今モ毎年初午ニ大染寺ヨリ法樂ヲシテ
城主ヨリモ幣使ヲ奉セラル此社ノ前通り兩側組屋敷也西
側ハ近年借地ト成テ所ノ人居住ス北ハ九藏町ニ続ク

羅漢町

羅漢町ハ通町通りノ東ニアリ昔ハ五百羅漢町ト云ヒ今ハ
畧シ羅漢町ト呼也由来未詳法輪寺ノ山号ニ拠テ名付

之カ又所名因テ山子トセカ不可知此所モ南北ノ通也

道祖神

道祖神宮石祠ニ并殿八尺三間余アリ所祭孫田彦命
ト云法輪寺門外左アリ地ハ組屋敷地也昔今ノ所ヨリ西
組屋敷ノ中ニアリ祠モナク石像ノ神體蓋中ニ立リ土人多ク地
藏ノ像ト思ヒ享保十年此邊火災アリ之後城主ヨリ再組
屋敷ヲ建テテ檢地ノ割アリ之時其地鼻濕ナレトテ舊地ニ
間四尺四方所ヲアラタメテ今ノ所四間半余ノ地ヨリ附アリテ
宮所トス組屋敷持也ト是モ陳壽カ記見タリ羅漢所ニテ

鎮守ノ如ク祭ヒリ祭日毎年正月十四日獅子舞等アリ

法輪寺

法輪寺ハ羅漢所ノ北ノ端ニアリ羅漢山正覺院ト号ス天台
宗ニ箕輪林法輪寺ノ末寺也境内除地寺説酒井宮内
至惘志因テ起立ト云同山ノ家舜ト云安ホス酒井宮内至
ト云入未考城主酒井左衛門尉家次子息宮内大輔忠勝
事カ家譜忠勝正保四年十月五十四歳ニ卒ストアリ時
羽州鶴岡城主ナリ

門西向

念佛堂 門内ノ左アリ二間半三間半アリ本尊阿彌陀六
地藏木像ヲ安ス

大師堂 門正高アリ瓦葺近年東叡山 崇保院宮
漆筆、画像ヲ安ス按スニ大師名良源江州洩井人
姓、木津氏天台座主補セ之、大僧正任ス輦車ヲ聽セ
永觀三年正月三日彌陀ヲ唱テ滅ス年七十四謚ヲ慈惠
ト賜フ元亨釈書ニ詳ナリ俗ニ元三大師ト称ス

本堂 南向瓦葺九間七間半アリ二階造也本尊阿彌陀
木像肚中ニ弘法ヲ作佛ヲ安ス照土觀音執至也樓上ノ

正面ニ釋迦胎土文珠普賢木像四隔ハ四天王左右五百
羅漢ノ木像ヲ列座ス參詣ノ入一西ノコレヲ并ス

庫裏八間半五間半アリ

寺寶

三尊彌陀木像

惠信作

不動木像

一軀

行基作

以上

新所 ニシテ

新所ハ羅漢所東小路ヨリ南入左右皆組屋敷ニ所家ナシ

弓町

弓町ハ羅漢町ヨリ磬敷手町ニテノ間ヲ云是所モ左右祖屋敷也
弓祖ナル故ニ名ツク今ハ此邊縱横ノ通ヲ總テ弓町ト呼也北
行ケル九藏町大雲寺ノ前ニ出ル昔ハ上羅漢町ト云ヒト也

磬敷手町 今作磬打

磬打町ハ弓町北ニアリ西ハ九藏町ニ続ク大雲寺ノ東ヲ云此
所時宗磬打ノ居ル故ニ名ツク磬打玉阿弥ト云者慶長四年
箕輪ヨリ此ニ移ルト云又其頂上和田慶存ト云者アリ是モ宗
ナリニカ玉阿弥カ此ニ移リ之後亦此ニ来リ住慶存ト共ニ近郷

ノリ念佛修行ノ民家ノ施捨ヲ受テ今ハ王堂ヲ建テ下也
今此ニ住スル磬打ハ皆彼二人カ子孫ト云時宗ノ元祖遍上人
ニ歸依ノ民上人ニ隨從ノ四國ニ新水給仕トケル者上人滅後
故郷ニ歸リ遺戒ヲ奉ヒ銅磬ヲ頸ニカケ和讃念佛ヲ村里ヲ
回リ信施ヲ受テ活計トニケルト也今世ニ磬打ト云モハ彼等カ
子孫也此宗剃髮者ヲ沙弥ト呼或ハ被慈利ト云者某阿
弥ト称ス編綴衣ヲ著ル也妻帯無戒ナシハ沙門ノ境界也
有髮者今多ク農工高買ノ業ヲ為テ世營トスハ是ハ宗旨ニ
於テ容ス所アルヨシ磬打ハ俗稱シ剃髮有髮總テ称スル也

本寺ハ相州藤澤清淨光寺ノ觸頭ハ江戸浅草日輪寺也此聲打多シ關東ニアリ清淨光寺ヨリ國ノ最寄可未寺示本寺ヲ立テ支配サスル也一遍上人ハ河野越智通廣カ弟ニ子シ俗名ヲ別府通秀ト云後髮ヲ薙テ智真坊ト号シ抖擻行脚ノ念佛ヲ修ス故ニ遊行上人ト云正應二年八月二十三日寂ス傳記ニアリ

十王堂 南側ニアリ最初ハ玉阿弥慶存等カ建立スト云間四面瓦葺也十王俱生神衣婆等ノ木像アリ又地藏ヲ安置ス聲打ノ持也

此町井伊氏城主時ヨリ除地ニ聲打共居住スル也此事可疑今始從其所言

江木新田

江木新田聲打所ノ東木戸外ノ所也東側ハカリ人家アリ西側ハ九藏所大雲寺ノ境内也室永六巳丑年江木村ヨリ移ル故今ニ江木村ノ分也是モ新地ナル故ニ新田ト称ス厩橋總社沼田蘆尾通日光山ノ往還ニ茶店多シ近年西側ニモ長屋建テ兩類ノ所トナル

諏方社

諏方明神社通所東畷畷中中沖ト云所ニアリ石宮ナリ

永祿年中玉田寺九世惠辨勸請下云傳タリ地赤坂村分
ニ玉田寺ノ持也

無縁堂

無縁堂、羅漢町東八所ハカリニアリ是モ赤坂村内也四面
取取ニ夾ク中ニアリ高崎ノ茶毘所也用基末詳慶長ノ頃
ヨリ新紺屋所金剛寺ノ持也下云初ハ羅漢町東矢嶋下云所
ニアリ故ニ矢嶋山下号ス其地所家接近ナリ以安藤氏ノ長臣
安藤丹下請テ今ノ地ニ移ス云年月末詳舊地今ニ存アリ
堂五間四面西向き葺葺也木尊阿彌陀又圓魔ノ木像アリ

庫裏五間ニ二間葺葺也

鐘樓 二間四方

上記自職人所北至江木新田東至無縁堂

和田三石

和田三石昔名高キ石也下云サレ氏令ソト識ル人鮮ニ故老ニ
問ニテ詳ナラス所謂三石ハ上和田圓石和田立石下和田方
石也相傳フ和田氏子細アリテ世ニ此三石ヲ愛セシナリ井伊氏

築城時モ近邊ノ大石ハ多ク其用ニ取リシカハ三石ハ和田氏
殊愛惜セシ由ヲ土人等カ語りニヨリテ其ツミ捨置シトナリ或
人云圓石上和田ノ畠ニアリテ享保ノ末善念寺ノ住持其地
主ニ請テ石ニ命メ切シメテ門前ノ橋トス立石ハ赤坂所觀音
堂ノ境内ニアリ今ハ大師石ト呼是也大師石ノ事詳ニ赤坂
町觀音堂ノ條ニ見方石今
前裁所白雲寺ノ南畠中ニ方ナル石屹然トナリ是也畠中
央ニアリト雖昔ヨリ奇異ヲ云傳ヘタル故懼ヒテ他ニ移ストテ不得
トナリ今化石ト稱スル石也

高崎志卷下畢

書高崎志後

日命侍史寬也傳撰高崎志既成沿
草之所由事實之所歸頗足觀矣蓋
聞初井伊氏之遷于此也僅翦草萊
畫封疆而已及厯數家之封守而後
戶口漸增屋宇相比焉自我先君
移封于此以來七十有餘年保息之
久世撫楮之遠也風化洽於分土德
澤溢於四竟街衢歲辟黎元月取遂

為一方之通邑於戲先君之功烈
其感矣哉此書畧言其事亦足以徵
已

寬政二年庚戌二月 源輝和

此書也先師家 薩中丞授川野邊子綽
先生所為書也矣

今侯之命也云是曰高崎志志記也高
崎城郭街村神祠佛寺凡其可知而
傳者皆以此書也蓋予所載臣細悉後
引證正確一可証實錄矣勿偏一覽指

尚子裝蒙提耳，且以使一國之人不類。
之，只在躬而不知其為子，且其績卓然。
我友我高，始錄最爾國，志為毛之通。
邑又奚足道，有二三記而傳者乎。然未有
于志也，後者憾為伏惟。

今侯之時，肯先生之聲，造實不相之業。
予載一時也，小人病廢，如運如者，得與
窺此一大盛了，予之幸甚矣。甘為中
先生既卒，此業每以求卒于東都，日比
谷邠命我，可悲。昔歲安，以丙辰運知借
覽，薩克源井氏所藏，恍乎如步先生
平日之談，於是追慕益甚，遂自

謄寫一通藏家為珍庶乎先生之
造愛厚不忌云

完政丁巳之秋八月

靈峰堤運知誌

須藤權左衛門上房
之寫



群馬県立図書館



1049463-1